

子どもの虐待と家族・集団の構図

外部からは見えにくい集団や家族内での虐待。

その背景に何があるのか。

私たちはどのように連携すべきなのか。

具体的な対応や支援の方法を探る。

プログラム(予定)

1. 開会にあたって：西田公昭(日本脱カルト協会代表理事、立正大学教授)
2. 報告・問題提起：集団・家族内での強固な信念や信仰に基づく虐待事例、カミングアウトし始めた「二世」たち、社会における対応の現実
山本ゆかり：日本脱カルト協会理事、『カルト宗教 性的虐待と児童虐待はなぜ起きるのか』アスコム(2007/2/28)に収録の外国文献等を翻訳
3. 講演と対談：
スピリチュアル・アブュースとは何か
藤田庄市：ジャーナリスト・写真家、著書『カルト宗教事件の深層：「スピリチュアル・アブュース」の論理』春秋社(2017/5/26)ほか
楠山泰道：(福)立正福祉会「青少年心の相談室」元室長・日蓮宗大明寺住職
著書『カルトから家族を守る』毎日新聞社(2000/9 共著)ほか
4. 講演：
相談の現場から～いのちの家 LETS の取り組み
信仰二世らの切実な相談への具体的な対処や支援事例と課題
竹迫 之：小諸いずみ会いのちの家 LETS・日本基督教団白河教会牧師
松田彩絵：小諸いずみ会いのちの家 LETS・社会福祉士
5. 質疑応答・クロストークセッション：モデレーター：鈴木エイト(ジャーナリスト)

日時：2019年8月24日(土)午後2時～5時(開場：午後1時30分)

会場：立正大学品川キャンパス3号館3階(東京都品川区)

(会場アクセス、お問い合わせ先等は裏面をご参照ください。)

主催：日本脱カルト協会

会場のご案内

立正大学品川キャンパス 3号館334号教室（東京都品川区大崎4丁目2の16）



《アクセス》

- ・ JR山手線「大崎駅」北改札西口～徒歩5分
- ・ JR山手線「五反田駅」西口～徒歩5分
- ・ 東急池上線「大崎広小路駅」～徒歩1分

※「正門」からご入構下さい。

お問い合わせ先：日本脱カルト協会事務局

住 所： 〒242-0021 神奈川県大和市中心2-1-15 パークロード大和ビル5F 大和法律事務所内

Eメール： info@jscpr.org

F A X： 03-5539-4879



@JSCPR1995

公式サイト <http://www.jscpr.org/>



日本脱カルト協会・設立の経緯

1995年3月の強制捜査にはじまった一連のオウム報道では、教祖の異常性と共に、信者達の想像を絶する奇妙な行動が問題になり、マインド・コントロールという概念で様々に説明されました。オウム真理教事件では、加害者となった信者の多くが、世間的にはいわゆるエリートであったことも人々を驚かせました。

オウム真理教や統一協会のように勧誘の際にターゲットの精神の不安定化を図って取り込み、やがて社会常識を捨てさせ、教団の論理で行動させ被害をもたらす集団を、私たちは破壊的カルトと呼んでいます。欧米では、日本に先駆けてこのようなカルトの被害に注目し、その予防、脱会支援、脱会後の社会復帰などカルトに関わる問題に取り組む団体が作られ、多方面の専門家や元メンバーらがネットワークを形成してきました。

オウム真理教の場合、自分の子どもが入信して教団活動をしていることに悩んだ親たちが、1989年には「オウム真理教被害者の会」（現、オウム真理教家族の会）を組織し、何人かの専門家がアドバイザーとなりました。そして、1995年5月の教祖逮捕を受け、6月には、その専門家らを中心に、カウンセラー、研究者、宗教関係者らが独自に集い、情報交換を始め、同年11月に「日本脱カルト研究会（Japan De-Cult Council）」を設立しました。その後、2004年4月に、現在の「日本脱カルト協会（The Japan Society for Cult Prevention and Recovery）」に名称を変更し、様々な議論ある団体を脱会した元メンバーや家族も会員とし、より幅広い分野からの参加者を得て現在に至っています。